

大原 功 議員



## 地震に備え、室内用シエルトー設置を勧めてはどうか

問

防災対策について聞く。

- (1) 救命胴衣を飛鳥村のよう配布してはどうか。
- (2) 市指定の避難場所は、ボーリング調査は実施してあるのか。
- (3) オートロックの高層ビルは、避難できるのか。
- (4) 家の6畳程度の部屋の中に(耐震)シエルトーをつくり、いざというとき、そこに避難してもらえばどうか。

## 自助で備えてほしい

答 防災安全課長

- (1) 24年は栄南保育所に設置し、今後ほかの保育所等に配備を考えていきたい。また、高齢者の集まる施

設の配備も、今後の検討課題とされている。

- (2) 津波・高潮緊急時避難場所は、昭和56年以降の(建設で)耐震基準を満たしていると考えている。
- (3) 実際に津波等になった場合(避難者から救助の声があれば)協定を結んでいるビルの家庭は、解除に協力したい。

答 市長

- (4) 地震対策は、さまざまなことをまだやらなければならない。
- 市民にも自助に協力してもらい、どう地震に備えるかは今一度考えてほしい。補助は考えていない。

## 下水の故障時修理責任は

問

下水道について聞く。

- (1) 公共下水道に接続しなかつたら、法律で罰金はあのか。
- (2) アパートの住民が下水道を使えなくなつたら、だれが弁償するのか。だれが責任を取るのか。

## 公共升までが公の責任である

答 下水道課長

- (1) 下水道法で、下水道が使えるようになったら、遅延なく接続することを義務付けているが、法律の罰則規定はない。

答 市長

- 住民アンケート調査において、下水道整備が遅れているとの意見を多数聞いており、市の重要施策として着実に整備を進めている。
- (2) 復旧は、設置時の一つの基準だが、公共升までは公の責任で修繕していく。

宅内配管については(個人責任の修繕に)協力してほしい。

激甚災害に指定された場合は、国から総合的な形で補助金がもらえると思っている。

## 女性の会の補助金が多い理由は

問

女性の会の補助金は、子ども会や福寿会より多い。なぜか。

## 活動に応じ予算をプラスする

答 市長

各種団体の補助金は、それぞれ既定額をベースに、予算を組む前に次年度の活動計画を聞いている。

それが市民参加というような幅広い活動に対しては、既存の予算にプラスというように考えている。